



FLI の移行後の手順

ONTAP FLI

NetApp
January 07, 2026

目次

FLI の移行後の手順	1
ONTAP ストレージからのソース LUN の削除	1
ホストからのソース LUN の削除	2
ゾーンセットからソースストレージとホストゾーンを削除します	3
Brocade ファブリックの例	3
Cisco ファブリックの例	4
移行後の Snapshot コピーを作成する	5
FLI 移行のクリーンアップ / 検証フェーズ	5
移行レポート	6
ソースアレイとデスティネーションアレイのゾーニングを解除します	6
ONTAP からソースアレイを削除しています	8
デスティネーションアレイ構成を削除しています	8
新たに移行した環境を文書化	9

FLI の移行後の手順

ONTAP ストレージからのソース LUN の削除

移行の完了後に ONTAP ストレージからソース LUN を削除する手順を次に示します。



このタスクの例では、_HDS AMS2100 アレイを使用します。実際のタスクは、使用しているアレイやアレイ GUI のバージョンによって異なる場合があります。

手順

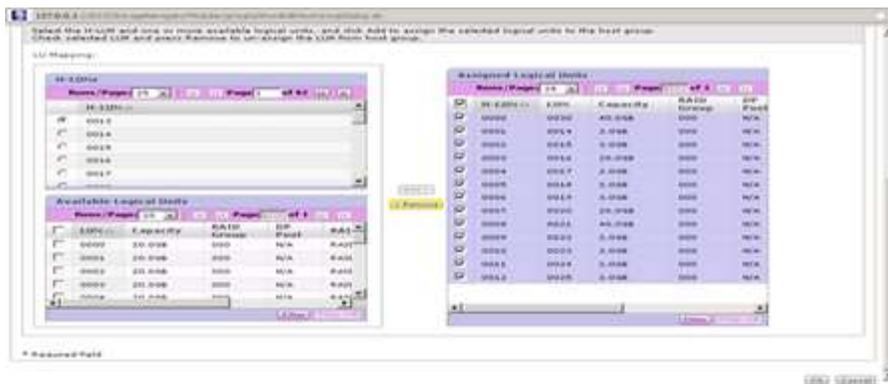
1. Hitachi Storage Navigator Modular にログインします。
2. 計画フェーズで作成した ONTAP ホストグループを選択し、* ホストグループの編集 * を選択します。



3. [* Ports] を選択し、[* Forced set] を選択して選択したすべてのポートに適用します。



4. 割り当てられた論理 LUN から移行されたホスト LUN を選択します。Source LUNs ワークシートに記載されている各ホストの LUN 名を使用します。ここで、Windows Server 2012、RHEL 5.10、ESXi 5.5 ホストの LUN を選択し、* Remove * を選択します。



ホストからのソース LUN の削除

FLI 移行の完了後にホストからソース LUN を削除する手順を次に示します。



このタスクの例では、_HDS AMS2100 アレイを使用します。実際のタスクは、使用しているアレイやアレイ GUI のバージョンによって異なる場合があります。

ホストからソース LUN を削除するには、次の手順を実行します。

手順

1. Hitachi Storage Navigator Modular にログインします。
2. 移行するホストを選択し、 * Edit Host Group * を選択します。



3. [* Ports] を選択し、 [* Forced set] を選択して選択したすべてのポートに適用します。


```
cfgEnable "PROD_LEFT"  
cfgSave
```

3. ファブリック B のゾーンセットからゾーンを削除します

```
cfgDelete "PROD_RIGHT", "rx21_AMS2100"  
cfgDelete "PROD_RIGHT", "rx22_AMS2100"  
cfgDelete "PROD_RIGHT", "rx20_AMS2100"
```

4. ファブリック B でゾーンセットをアクティブにします

```
cfgEnable "PROD_RIGHT"  
cfgSave
```

Cisco ファブリックの例

この手順は、Cisco ファブリックのゾーンセットからソースストレージとホストゾーンを削除する方法を示しています。



この例のゾーン名は `_rx21_AMS2100_` です。

手順

1. ファブリック A のゾーンセットからゾーンを削除します

```
conf t  
zoneset name PROD_LEFT vsan 10  
no member rx21_AMS2100  
no member rx22_AMS2100  
no member rx20_AMS2100  
exit
```

2. ファブリック A でゾーンセットをアクティブにします

```
zoneset activate name PROD_LEFT vsan 10  
end  
copy running-config startup-config
```

3. ファブリック B のゾーンセットからゾーンを削除します

```
conf t
zoneset name PROD_RIGHT vsan 10
no member rx21_AMS2100
no member rx22_AMS2100
no member rx20_AMS2100
exit
```

4. ファブリック B でゾーンセットをアクティブにします

```
zoneset activate name PROD_RIGHT vsan 10
end
copy running-config startup-config
```

移行後の Snapshot コピーを作成する

移行後の Snapshot コピーを作成しておくこと、あとで必要に応じてリバートできます。

ステップ

1. 移行後の Snapshot コピーを作成するには、「snap create」コマンドを実行します。

```
DataMig-cmode::> snap create -vserver datamig -volume winvol -snapshot
post-migration

DataMig-cmode::> snap create -vserver datamig -volume linuxvol -snapshot
post-migration

DataMig-cmode::> snap create -vserver datamig -volume esxvol -snapshot
post-migration
```

FLI 移行のクリーンアップ / 検証フェーズ

クリーンアップフェーズでは、FLI 移行ログを収集し、ネットアップストレージからソースストレージの構成を削除し、ソースストレージからネットアップストレージのホストグループを削除します。また、ソースからデスティネーションへのゾーンを削除します。検証とは、移行計画がどの程度正確に実行されたかを見極めるためのポイントです。

ログを参照してエラーがないかを確認し、パスを確認し、アプリケーションのテストを実行して、移行が正常に完了したことを確認します。

移行レポート

インポートのログは、クラスタのイベントログファイルに記録されます。ログでエラーがないかを確認し、移行が正常に完了したことを確認してください。

移行レポートは次のように表示されます。

```
DataMig-cmode::*> rows 0; event log show -nodes * -event fli*
7/7/2014 18:37:21 DataMig-cmode-01 INFORMATIONAL
fli.lun.verify.complete: Import verify of foreign LUN 83017542001E of size
42949672960 bytes from array model DF600F belonging to vendor HITACHI
with NetApp LUN QvChd+EUXoiS is successfully completed.
~~~~~ Output truncated ~~~~~
```



ソース LUN とデスティネーション LUN を比較する検証手順については、移行実行フェーズで説明しています。インポートと LUN の検証手順については、インポートジョブと外部 LUN にリンクされているため、移行の実行フェーズで説明します。

ソースアレイとデスティネーションアレイのゾーニングを解除します

移行と検証がすべて完了したら、ソースアレイとデスティネーションアレイのゾーニングを解除できます。

ソースアレイとデスティネーションアレイのゾーニングを解除するには、ソースストレージからデスティネーションへのゾーンを両方のファブリックから削除します。

Brocade ファブリックの例

手順

1. ファブリック A のゾーンセットからゾーンを削除します

```
cfgDelete "PROD_LEFT", "ZONE_AMS2100_cDOT_Initiator_fabA"
zoneDelete "ZONE_AMS2100_cDOT_Initiator_fabA"
```

2. ファブリック A でゾーンセットをアクティブにします

```
cfgEnable "PROD_LEFT"
cfgSave
```

3. ファブリック B のゾーンセットからゾーンを削除します

```
cfgDelete "PROD_RIGHT", "ZONE_AMS2100_cDOT_Initiator_fabB"  
zoneDelete "ZONE_AMS2100_cDOT_Initiator_fabA"
```

4. ファブリック B でゾーンセットをアクティブにします

```
cfgEnable "PROD_RIGHT"  
cfgSave
```

Cisco ファブリックの例

手順

1. ファブリック A のゾーンセットからゾーンを削除します

```
conf t  
zoneset name PROD_LEFT vsan 10  
no member ZONE_AMS2100_cDOT_Initiator_fabA  
no zone name ZONE_AMS2100_cDOT_Initiator_fabA vsan 10  
exit
```

2. ファブリック A でゾーンセットをアクティブにします

```
zoneset activate name PROD_LEFT vsan 10  
end  
copy running-config startup-config
```

3. ファブリック B のゾーンセットからゾーンを削除します

```
conf t  
zoneset name PROD_RIGHT vsan 10  
no member ZONE_AMS2100_cDOT_Initiator_fabB  
no zone name ZONE_AMS2100_cDOT_Initiator_fabB vsan 10  
exit
```

4. ファブリック B でゾーンセットをアクティブにします

```
zoneset activate name PROD_RIGHT vsan 10  
end  
Copy running-config startup-config
```

ONTAP からソースアレイを削除しています

FLI 移行の完了後にデスティネーションアレイからソースアレイを削除する手順を次に示します。

手順

1. 認識可能なすべてのソースアレイを表示します。

```
DataMig-cmode::> storage array show
Prefix Name Vendor Model Options
-----
HIT-1 HITACHI_DF600F_1 HITACHI DF600F
```

2. ソースストレージアレイを削除します。

```
DataMig-cmode::> storage array remove -name HITACHI_DF600F_1
```

デスティネーションアレイ構成を削除しています

FLI 移行の完了後にソースアレイからデスティネーションアレイの構成を削除する手順を次に示します。

手順

1. Hitachi Storage Navigator Modular にシステムとしてログインします。
2. [* AMS 2100 * array] を選択し、[* Show * and * Configure Array] をクリックします。
3. root を使用してログインします。
4. Groups を展開し、* Host Groups * を選択します。
5. cDOT * FLI * ホストグループを選択し、* ホストグループの削除 * をクリックします。



6. ホストグループを削除することを確認します。



新たに移行した環境を文書化

お客様の環境を文書化するには 'AutoSupport コマンド'を使用する必要問題があります

お客様の環境を文書化するには、次の手順を実行します。

手順

1. 問題 最終的な構成を文書化する AutoSupport コマンド

```
B9CModeCluster::*> autosupport invoke -node DataMig-cmode-01 -type all  
-message "migration-final"
```

2. 新たに移行した環境を完全に文書化します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。